

## 青森県内の消費生活相談状況（令和4年4月～9月）のポイント

### 【相談全体に関して】

- 令和4年4～9月の消費生活相談件数は計 3,889 件で、前年同期と比較して 136 件(3.6%)の増加となっています。
- うち特殊詐欺の相談は計 265 件で、前年同期と比較し 77 件(22.5%)減少しました。これは、昨年度急増した、還付金詐欺の相談が減少したことが要因となっています。

### 【特徴・変化】

#### ① 高齢者からの相談件数が増加傾向

- ・ 65歳以上の高齢者からの相談件数 1,362 件（前年同期比+107件、増加率 8.5%）
- ・ 相談全体に占める割合 35.0%（← 前年同期 33.4%）

#### ② 各年代の相談状況

- ・ 20歳未満からの相談件数 103 件（前年同期比+13件、増加率 14.4%）  
うち 18歳未満からの相談件数 62 件（前年同期比+7件、増加率 12.7%）  
18歳・19歳からの相談件数 41 件（前年同期比+6件、増加率 17.1%）  
件数が多い相談：教養・娯楽サービス(インターネットゲームやアダルトサイトなど)
- ・ 20代からの相談件数 276 件（前年同期比▲13件、減少率 4.5%）  
件数が多い相談：教養・娯楽サービス（出会い系サイトや副業など）
- ・ 30代からの相談件数 334 件（前年同期比▲36件、減少率 9.7%）  
件数が多い相談：金融・保険サービス（融資サービスなど）
- ・ 40代からの相談件数 519 件（前年同期比+54件、増加率 11.6%）  
件数が多い相談：商品一般（不審なメールや電話など）
- ・ 50代からの相談件数 636 件（前年同期比+29件、増加率 4.8%）  
件数が多い相談：保健衛生品（化粧品の定期購入など）
- ・ 60代からの相談件数 678 件（前年同期と同数）  
件数が多い相談：商品一般（不審なメールや電話など）

#### ③ 特殊詐欺に関する状況

- ・ 特殊詐欺に関する相談件数 265 件（前年同期比▲77件、減少率 22.5%）  
（相談全体に占める特殊詐欺の割合 6.8%（← 前年同期 9.1%））
- ・ うち、還付金詐欺相談件数 36 件（前年同期比▲91件、減少率 71.7%）
- ・ うち、金融商品取引名目詐欺 55 件（前年同期比+37件、増加率 205.6%）

#### ④ 定期購入に関する相談が増加

- ・ 定期購入（健康食品・化粧品等） 347 件（前年同期比+105件、増加率 43.4%）

#### ⑤ 副業に関する相談が減少

- ・ 副業（登録料を支払ったが稼げない等） 85 件（前年同期比▲27件、減少率 24.1%）

# 令和4年4-9月における青森県内の消費生活相談状況

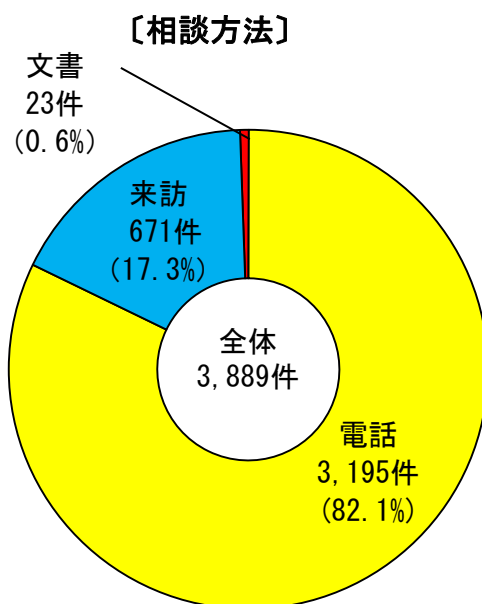
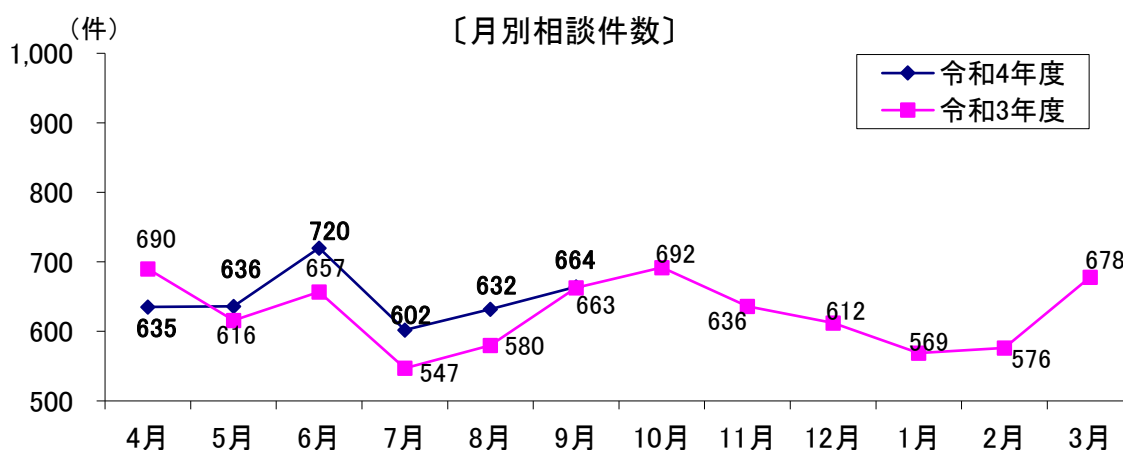
## 1 相談状況

### (1) 概況

令和4年4-9月に県内の消費生活相談窓口で受け付けた消費生活に関する相談件数は、3,889件（苦情相談3,163件、問合せ725件、要望1件）であり、前年同期と比較して136件（3.6%）増加しています。

（単位：件）

項目	年度	令和4年 4-9月 (a)	令和3年 4-9月 (b)	増減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
苦情		3,163	3,043	120	103.9%
問合せ		725	710	15	102.1%
要望		1	0	1	-
計		3,889	3,753	136	103.6%

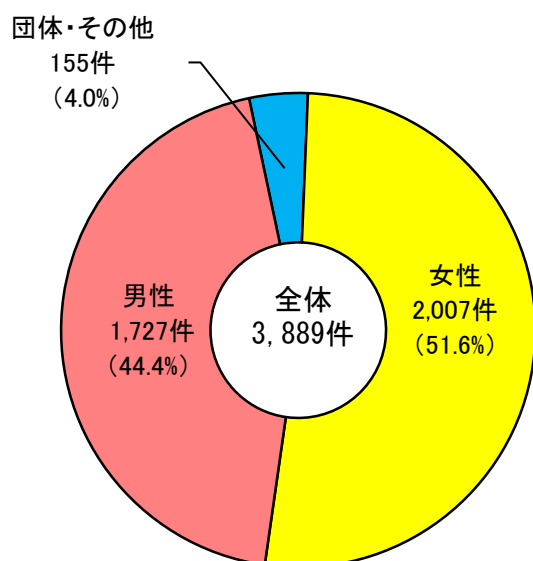


## (2) 契約当事者の状況

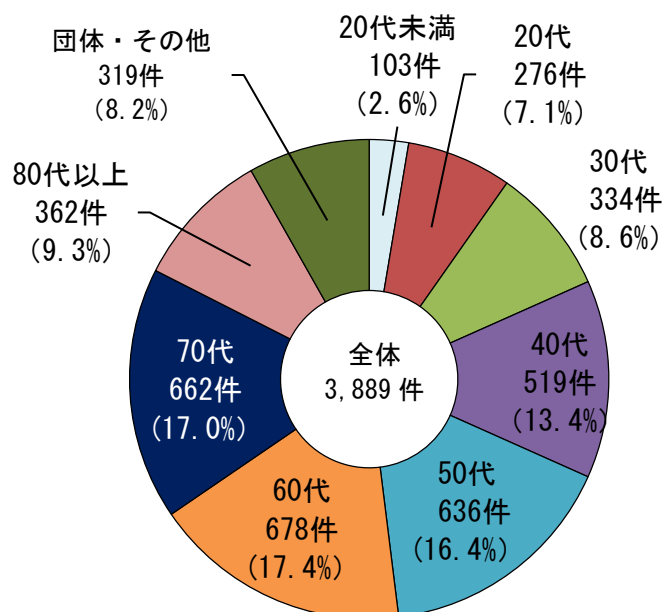
契約当事者を性別で見ると、女性が2,007件で、全体の51.6%を占めています。年代別では、60代が678件(17.4%)と最も多く、次いで70代が662件(17.0%)となっています。

また、契約当事者を職業別で見ると、給与生活者と無職が同数で1,471件(37.8%)と最も多くなっています。

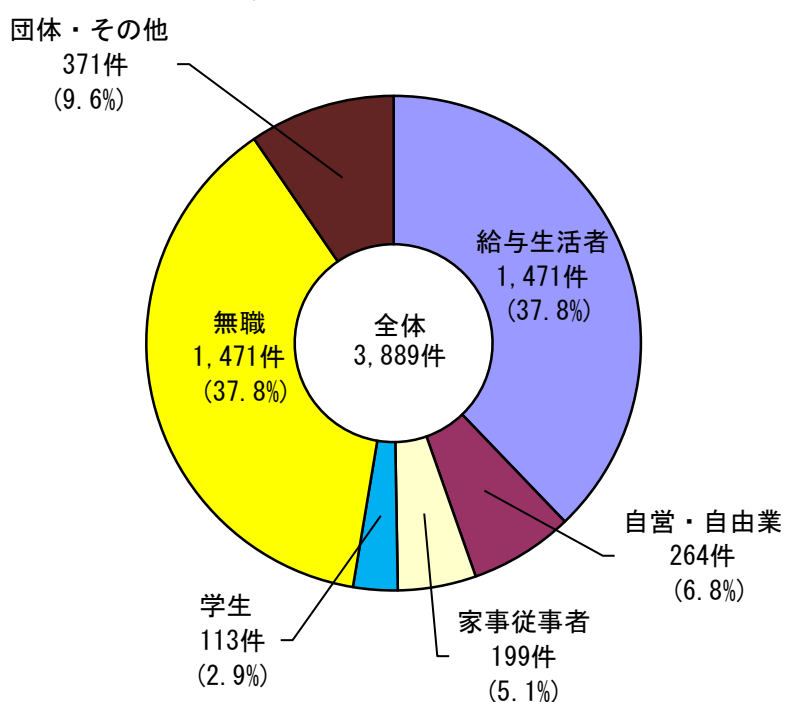
〔契約当事者の性別〕



〔契約当事者の年代〕



〔契約当事者の職業〕



### (3) 主な商品・役務別の相談状況

(単位：件)

	商品・役務名	令和4年 4-9月 (a)	令和3年 4-9月 (b)	増減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
1	商品一般	462	412	50	112.1%
2	金融・保険サービス	349	323	26	108.0%
3	保健衛生品	340	261	79	130.3%
4	教養・娯楽サービス	293	354	▲61	82.8%
5	食料品	284	291	▲7	97.6%
	その他	2,161	2,112	49	102.3%
	計	3,889	3,753	136	103.6%

#### 1 「商品一般」

令和4年4-9月の相談件数は462件で、前年同期より50件(12.1%)増加しています。商品一般は、商品が多岐にわたる相談や、商品を特定できない相談が分類されます。また、不審なメールや電話に関する相談や、「消費料金」等の債務内容が不明な架空請求の相談が含まれています。

#### 2 「金融・保険サービス」

令和4年4-9月の相談件数は349件で、前年同期より26件(8.0%)増加しています。最も多いのは、融資サービスに関する相談の182件で、前年同期199件から17件(8.5%)減少しています。次いで、クレジットカードの入退会に関する相談や暗号資産の投資に関する相談が含まれる他の金融関連サービスに関する相談が多くなっています。

#### 3 「保健衛生品」

令和4年4-9月の相談件数は340件で、前年同期より79件(30.3%)増加しています。化粧品に関する相談が267件で全体の78.5%を占めています。保健衛生品のうち、235件は定期購入に関する相談となっており、件数が増加した要因となっています。

#### 4 「教養・娯楽サービス」

令和4年4-9月の相談件数は293件で、前年同期より61件(17.2%)減少しています。最も相談が多いのは、アダルト情報、映像配信サービスなどを含む娯楽等情報配信サービスに関する相談の119件で、前年同期の132件から13件(9.8%)減少となりました。また、出会い系サイト、インターネットゲームを含む他の教養・娯楽の相談が113件で、前年同期164件より51件(31.1%)減少したことなどが減少の要因と考えられます。

#### 5 「食料品」

令和4年4-9月の相談件数は284件で、前年同期より7件(2.4%)減少しています。最も相談が多いのは、健康食品に関する相談の139件で前年同期の155件から16件(10.3%)減少しています。その一方、魚介類の相談は59件で、前年同期の38件から21件(55.3%)増加しています。

#### (4) 契約当事者年代別商品・役務相談状況（上位3位）

契約当事者の年代別の商品・役務別上位3位は以下の表のとおりとなっています。20歳未満、20代の若い世代では、教養・娯楽サービスが1位になっています。その内訳を見ると、20歳未満ではインターネットゲームやアダルト情報サイト、20代では出会い系サイト、副業の相談が主となっています。

30代は、融資サービスなどの金融・保険サービスの相談が1位となっています。40代は、不審なメールや電話に関する相談を含む商品一般に関する相談が1位となっています。50代は、化粧品の定期購入に関する保健衛生品の相談が1位となっています。

60代、70代、80代以上、その他・不明の1位は商品一般ですが、内訳としては40代と同様、不審な電話やメールに関する相談が多い傾向にあります。

(単位：件)

	1		2		3	
20歳未満	教養・娯楽サービス	34	保健衛生品	16	食料品	14
20代	教養・娯楽サービス	40	金融・保険サービス	29	保健・福祉サービス	25
30代	金融・保険サービス	45	商品一般	38	教養娯楽品	33
40代	商品一般	49	保健衛生品	47	教養・娯楽サービス	43
50代	保健衛生品	83	商品一般	68	金融・保険サービス	57
60代	商品一般	87	保健衛生品	77	金融・保険サービス	58
70代	商品一般	99	食料品	67	金融・保険サービス	59
80代以上	商品一般	47	食料品	40	運輸・通信サービス	28
その他・不明	商品一般	47	金融・保険サービス	33	他の役務	28

#### (5) 相談に係る契約等の既払金額

令和4年4-9月の相談に係る既払金額等の状況を見ると、お金を支払った人の数、既払金額の合計、最大既払額、一人当たりの平均既払金額ともに増加しています。

	令和4年 4-9月 (a)	令和3年 4-9月 (b)	増減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
お金を支払った人の数	864人	750人	114人	115.2%
既払金額合計	391,358千円	312,290千円	79,068千円	125.3%
平均既払金額(一人当たり)	453千円	416千円	37千円	108.9%
最大既払額	50,000千円	30,000千円	20,000千円	166.7%

## 2 消費生活相談における特殊詐欺の状況

### (1) 概況

令和4年4-9月の特殊詐欺に関する相談件数は265件で、前年同期より77件(22.5%)減少しています。類型別にみると、振り込み詐欺が129件(相談件数の48.7%)と最も多く、次いで金融商品取引名目詐欺の55件(同20.8%)となっています。

振り込み詐欺のうち、還付金詐欺が36件で前年同期より91件(71.7%)減少しており、特殊詐欺の相談件数が大きく減少したことの主な要因となっています。一方、実際には存在しない会社の情報を提供し、株や社債等の購入や名義貸しを求める金融商品取引名目詐欺が前年同期より37件(205.6%)増加しています。これには、世間一般に「劇場型詐欺」と呼ばれる老人ホームの入居権の名義貸しの相談が含まれています。

(単位：件)

類 型	年 度	令和4年 4-9月 (a)	令和3年 4-9月 (b)	増 減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
振り込み詐欺		129	204	▲75	63.2%
架空請求詐欺		93	77	16	120.8%
還付金詐欺		36	127	▲91	28.3%
融資保証金詐欺		0	0	0	-
オレオレ詐欺		0	0	0	-
金融商品取引名目詐欺		55	18	37	305.6%
ワンクリック詐欺		50	73	▲23	68.5%
その他の名目詐欺(宝くじ)		16	27	▲11	59.3%
異性との交際あっせん名目詐欺		13	19	▲6	68.4%
ギャンブル必勝法情報提供名目詐欺		2	1	1	200.0%
合 計		265	342	▲77	77.5%

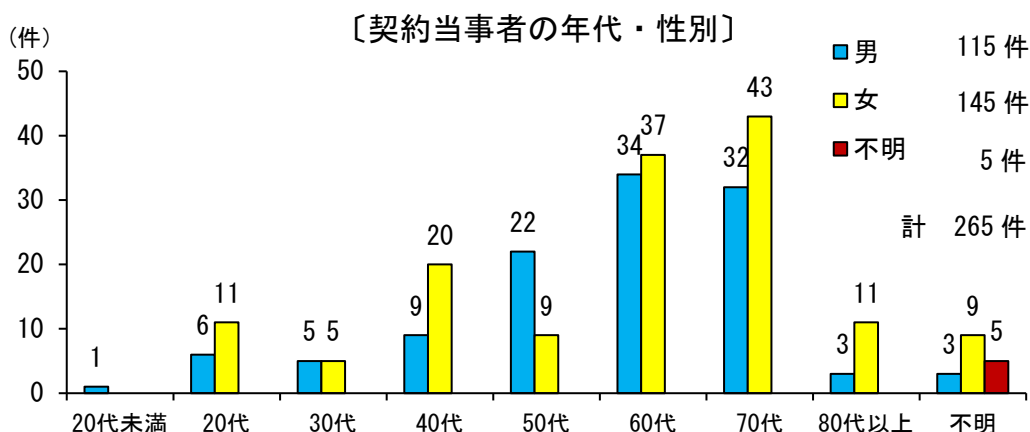
なお、それぞれの特殊詐欺の類型と、消費生活相談において分類される主な商品・役務名との対応関係は以下のとおりです。

#### (参考) 主な商品・役務別分類(P4)との対応状況 (令和3年度改正反映)

類型	主な商品・役務名	
振り込み詐欺	架空請求詐欺	商品一般、教養・娯楽サービス
	還付金詐欺	保健・福祉サービス
	融資保証金詐欺	金融・保険サービス
	オレオレ詐欺	相談その他
ワンクリック詐欺	教養・娯楽サービス	
金融商品取引名目詐欺	保健・福祉サービス	
異性との交際あっせん名目詐欺	教養・娯楽サービス	
その他の名目詐欺(宝くじ)	教養・娯楽サービス	
ギャンブル必勝法情報提供名目詐欺	教養・娯楽サービス	

### (2) 特殊詐欺に係る当事者の状況

令和4年4-9月における特殊詐欺に係る当事者を年代・性別でみると、70代女性の43件が最も多く、次いで60代女性の37件となっています。



### (3) 特殊詐欺に係る既払金額

令和4年4-9月の特殊詐欺に係る既払金額等の状況をみると、お金を支払った人の数、既払金額合計、一人当たりの平均既払金額、最大既払額とも減少しています。

	令和4年 4-9月 (a)	令和3年 4-9月 (b)	増減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
お金を支払った人の数	41人	52人	▲11人	78.8%
既払金額合計	41,526千円	55,333千円	▲13,807千円	75.0%
平均既払金額(一人当たり)	1,013千円	1,064千円	▲51千円	95.2%
最大既払額	8,950千円	12,830千円	▲3,880千円	69.8%

## 3 相談全般における特徴

### (1) 定期購入に関する相談が増加

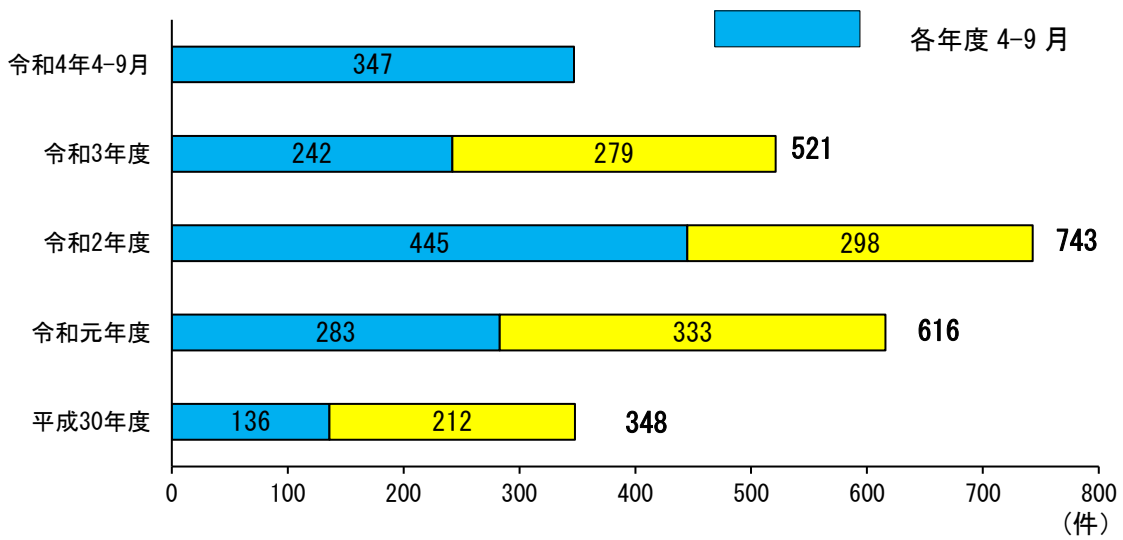
令和4年4-9月の定期購入に関する相談は347件で、前年同期より105件(43.4%)増加しました。定期購入に関する相談は、近年、増加傾向で推移しており、令和3年度に一旦減少しましたが、今期は、前年同期を上回っています。

また、対象となる商品は化粧品が219件で、前年同期より89件(68.5%)増加した一方、健康食品は84件で、前年同期より5件(5.6%)減少しています。次いで、水虫の治療薬などを含む医薬品、電子タバコなどを含む他の教養娯楽品がそれぞれ12件となっています。

(単位：件)

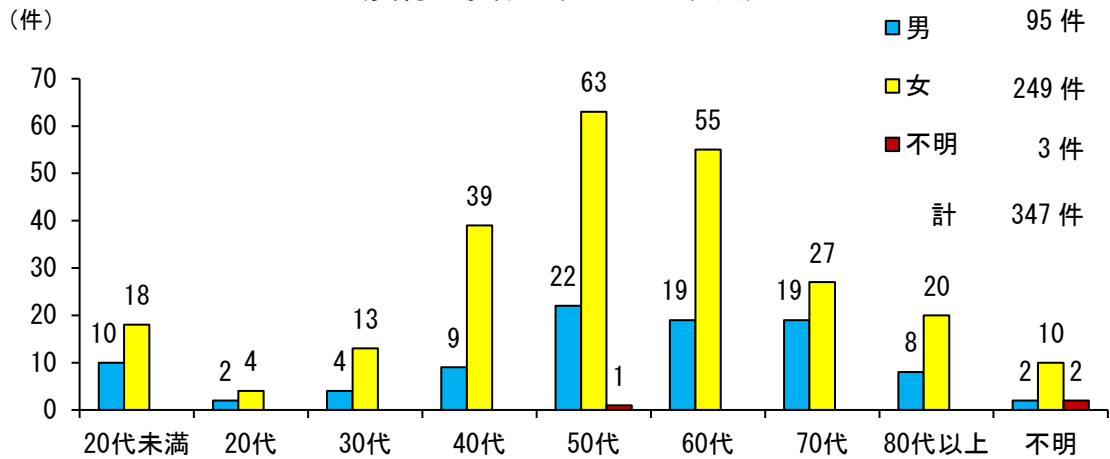
商品・役務名		令和4年 4-9月 (a)	令和3年 4-9月 (b)	増減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
1	化粧品	219	130	89	168.5%
2	健康食品	84	89	▲5	94.4%
3	医薬品	12	5	7	240.0%
	他の教養娯楽品	12	7	5	171.4%
	その他	20	11	9	181.8%
計		347	242	105	143.4%

〔定期購入に関する相談件数の推移〕



契約当事者の年代・性別でみると、50代女性が63件と最も多く、次いで60代女性が55件となっています。性別では、女性が249件と、全体の7割以上を占めています。

〔契約当事者の年代および性別〕



(2) 副業に関する相談が減少

令和4年4-9月の副業に関する相談は85件で、前年同期より27件(24.1%)減少しました。過去5年間の相談件数の推移をみると、増加傾向にあった副業に関する相談が減少していることがわかります。

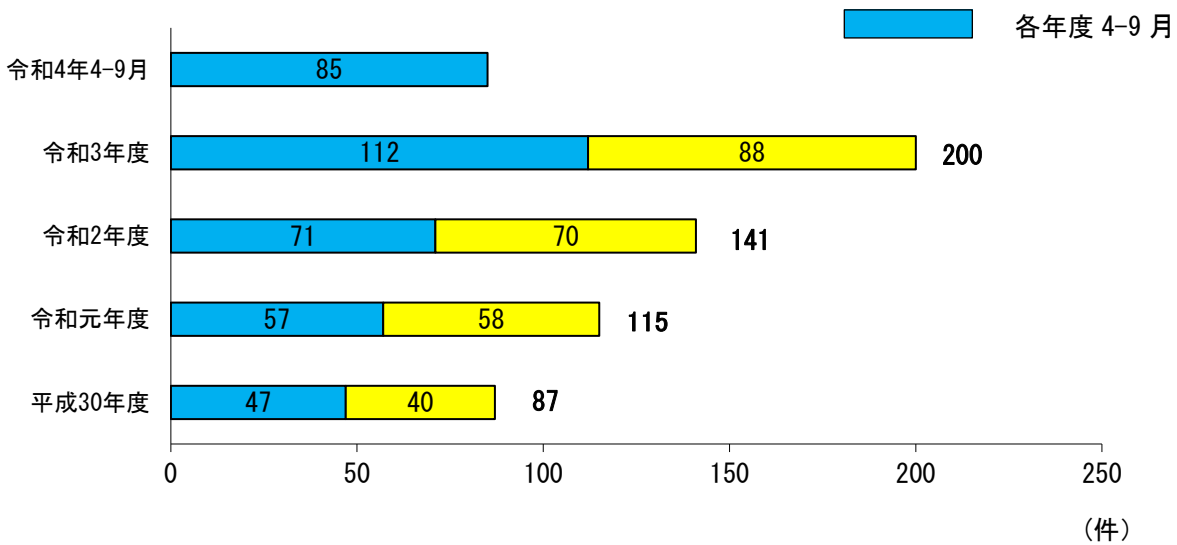
インターネットで副業を検索し、スマホの簡単な操作だけで楽に稼げるという副業サイトに登録してお金を支払ったが、説明と違って稼げないなどの相談がありました。

(単位：件)

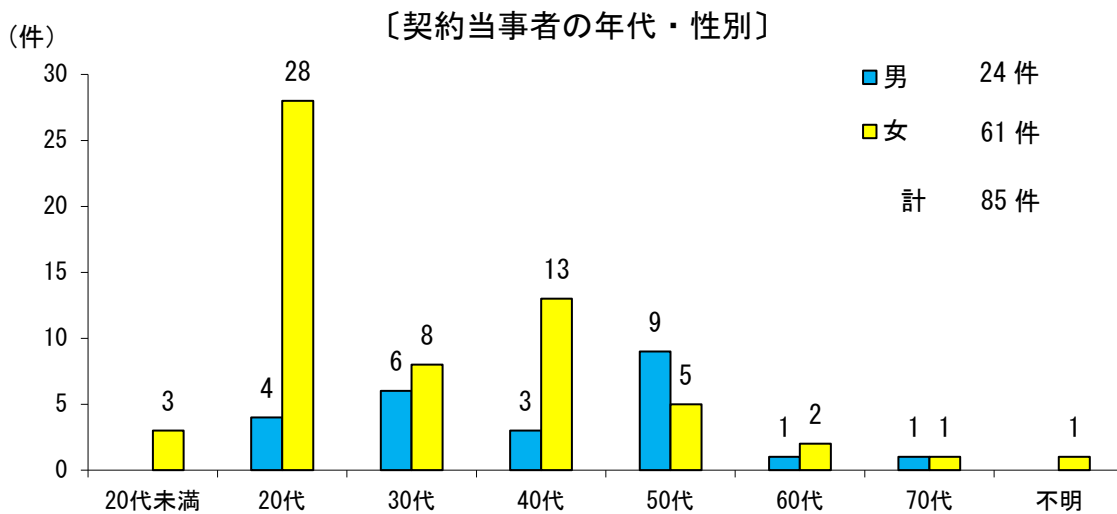
	令和4年 4-9月 (a)	令和3年 4-9月 (b)	増減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
相談件数	85	112	▲27	75.9%



### 〔副業に関する相談件数の推移〕



契約当事者の年代・性別の特徴を見ると、20代女性の28件が最も多く、次いで40代女性が13件となっています。20代以下が全体の41.2%を占めており、若年層が占める割合が高いのが特徴です。



## (3) 18歳・19歳の相談状況

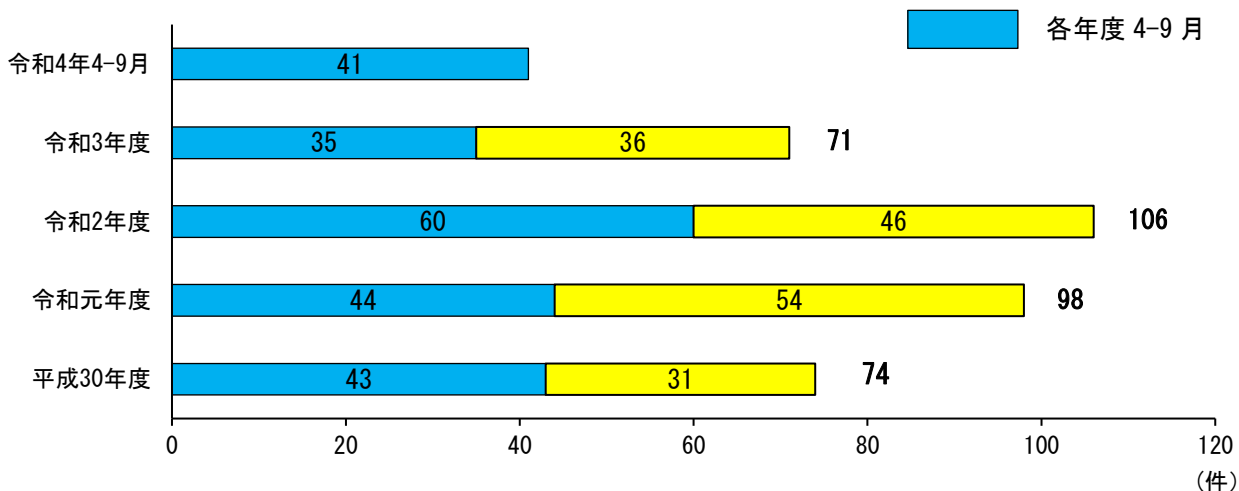
### ① 18歳・19歳の概況

令和4年4月1日から改正民法が施行され、成年年齢が20歳から18歳に引き下げられました。これに伴い、これまで未成年者取消権により、契約の取消しが可能だった、18歳、19歳の契約に関するトラブルが懸念されることから、この年代の相談状況に注目しています。

令和4年4-9月の18歳、19歳の相談件数は41件で、前年同期より6件(17.1%)増加しています。

過去5年間の18歳、19歳の相談件数を見ると、20歳未満の定期購入トラブルが増加した令和2年度をピークとして、令和3年度は減少しましたが、令和4年4-9月は再び増加傾向を見せており、今後も注意深く見守っていく必要があります。

〔18・19歳の相談件数〕



## ② 18歳・19歳の主な商品・役務別の相談状況

令和4年4-9月の18歳・19歳の相談では、アダルト情報、インターネットゲームなどの教養・娯楽サービスに関する相談が11件と最も多くなりました。次いで多いのは、保健衛生品、教養娯楽品、保健・福祉サービスで、それぞれ5件となっています。

(単位：件)

	商品・役務名	令和4年 4-9月 (a)	令和3年 4-9月 (b)	増減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
1	教養・娯楽サービス	11	13	▲2	84.6%
2	保健衛生品	5	2	3	250.0%
	教養娯楽品	5	2	3	250.0%
	保健・福祉サービス	5	2	3	250.0%
	その他	15	16	▲1	93.8%
	計	41	35	6	117.1%

## 4 65歳以上の高齢者の状況

### (1) 全般

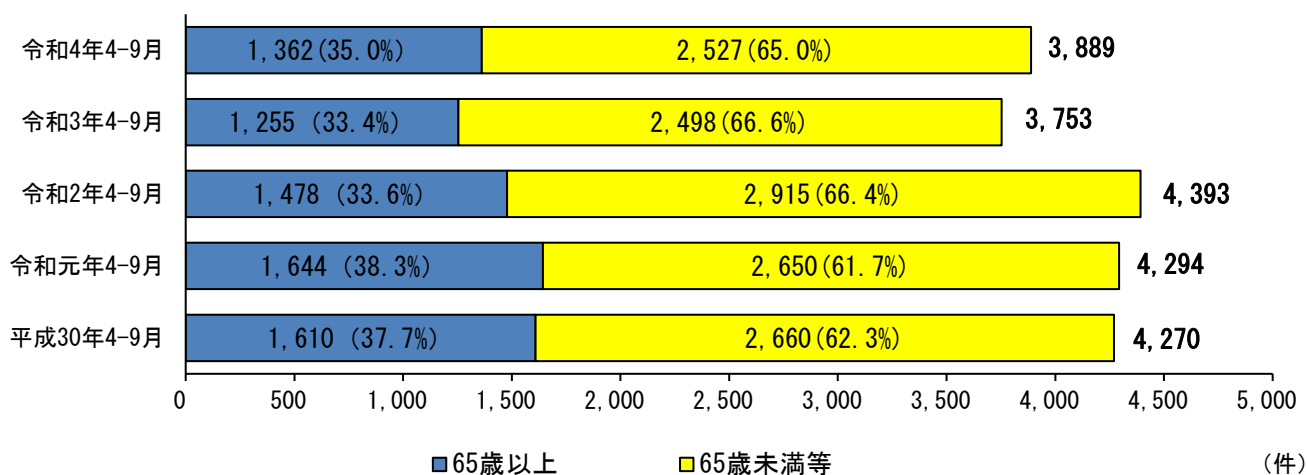
#### ① 高齢者の概況

令和4年4-9月の高齢者の相談は1,362件で、前年同期と比較して107件(8.5%)増加しています。相談全体に占める割合は35.0%で前年同期の33.4%から1.6ポイント増加しています。

(単位：件)

項目	年度	令和4年 4-9月 (a)	令和3年 4-9月 (b)	増減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
苦情		1,053	977	76	107.8%
問合せ		309	278	31	111.2%
計		1,362	1,255	107	108.5%

### 〔高齢者の占める割合と相談件数の推移〕



## ② 高齢者の主な商品・役務別の相談状況

令和4年4-9月の高齢者の相談では、架空請求などが含まれる「商品一般」に関する相談が186件と最も多く、前年同期より29件(18.5%)増加しています。

次いで多いのは、食料品の128件で、前年同期より13件(11.3%)増加しています。これは、魚介類の強引な電話勧誘に関する相談が増加したことが要因の一つと考えられます。

また、金融・保険サービスは118件で、前年同期より26件(28.3%)増加しています。これは、火災保険などの損害保険に関する相談が増加したことが主な要因となっています。

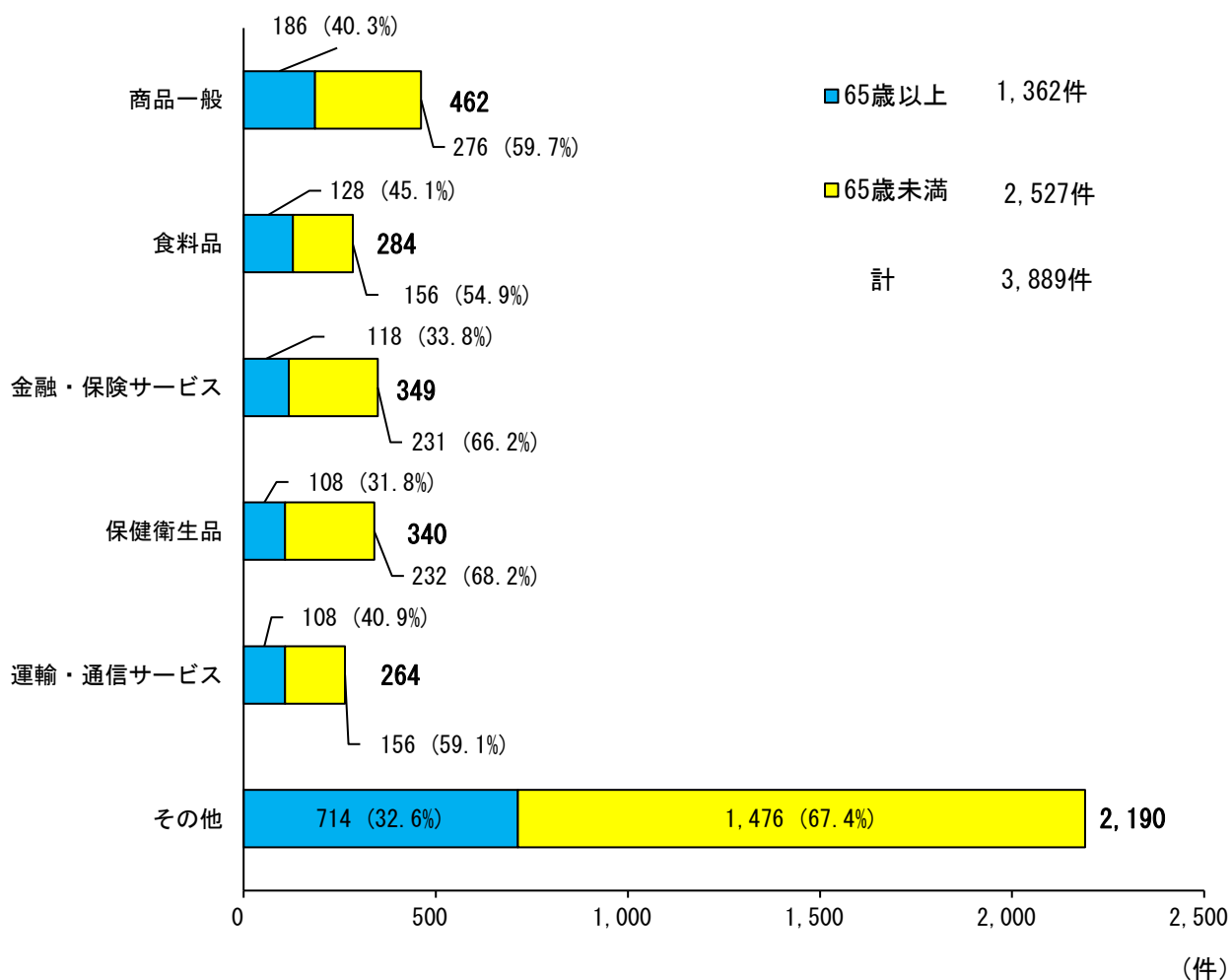
(単位：件)

	商品・役務名	令和4年 4-9月 (a)	令和3年 4-9月 (b)	増減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
1	商品一般	186	157	29	118.5%
2	食料品	128	115	13	111.3%
3	金融・保険サービス	118	92	26	128.3%
4	保健衛生品	108	84	24	128.6%
	運輸・通信サービス	108	122	▲14	88.5%
	その他	714	685	29	104.2%
	計	1,362	1,255	107	108.5%

### 〔主な商品・役務別の相談に占める高齢者とそれ以外の割合〕

主な商品・役務別に高齢者の割合をみると、「食料品」に関する相談が45.1%と最も高くなっています。

次いで、「運輸・通信サービス」に関する相談が40.9%となっています。通信関係の知識に乏しい高齢者に対し、固定電話のデジタル化により、光回線に変更しなければならないとか電話料金が安くなると言って光回線の契約をさせるインターネット通信サービスに関する相談が多くを占めています。



### ③ 高齢者の相談に係る契約等の既払金額

高齢者の相談に係る既払金額等の状況をみると、お金を支払った人の数、既払金額合計、平均既払金額、最大既払額とも増加しています。

(単位：件)

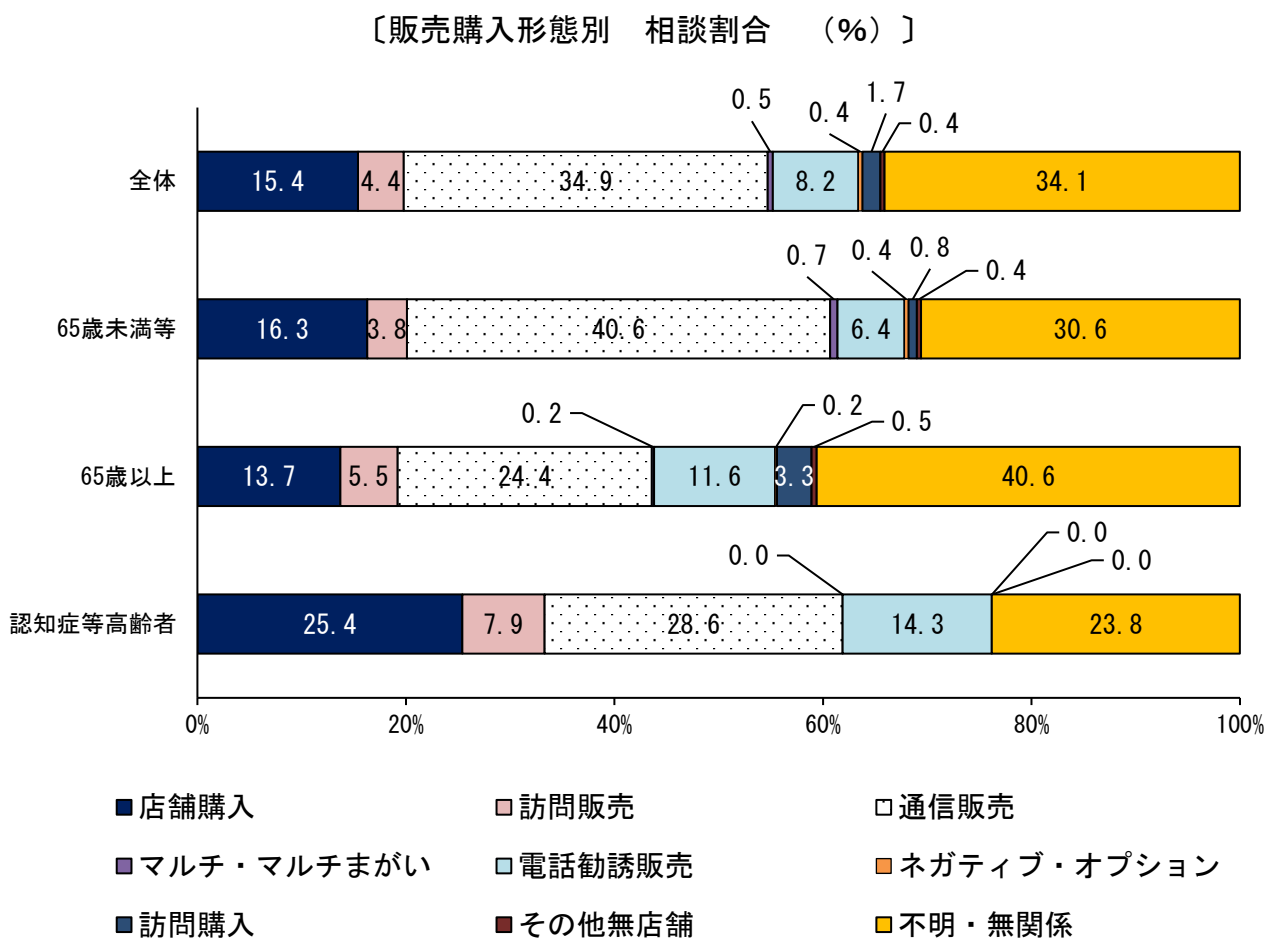
	令和4年 4-9月 (a)	令和3年 4-9月 (b)	増減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
お金を支払った人の数	222人	199人	23人	111.6%
既払金額合計	170,870千円	104,092千円	66,778千円	164.2%
平均既払金額 (一人当たり)	770千円	523千円	247千円	147.2%
最大既払額	50,000千円	20,000千円	30,000千円	250.0%

#### ④ 販売購入形態別相談割合

販売購入形態別で見ると、65歳以上では、65歳未満等と比べて訪問販売や電話勧誘販売が多く、特に認知症等高齢者においてその傾向は顕著です。認知症等高齢者の判断力不足に乘じ、悪質な訪問販売や電話勧誘販売が行われていることがうかがえます。

また、認知症等高齢者において、通信販売が28.6%で65歳以上全体の24.4%よりも多くの割合を占めています。判断力の衰えからテレビや新聞の通信販売の広告を見て注文をしたものの、注文したことすら覚えておらず、不審な荷物が届いたという相談につながっています。

その他、65歳以上で不明・無関係が多くなっているのは、還付金詐欺や不審な電話やメールの相談がここに分類されることも要因の一つとなっています。



## (2) 高齢者の特殊詐欺の状況

### ① 概況

高齢者の特殊詐欺に関する相談件数は130件で、前年同期より6件(4.8%)増加しています。類型別にみると、振り込め詐欺が68件(相談件数の52.3%)と最も多く、次いで金融商品取引名目詐欺の38件(同29.2%)となっています。

振り込め詐欺のうち、令和3年度に急増した還付金詐欺が22件で前年同期より49件(69.0%)減少した一方、架空請求詐欺は46件で前年同期より17件(58.6%)増加しています。また、金融商品取引名目詐欺は38件で前年同期より、34件(85.0%)増加しています。これには「劇場型詐欺」とも呼ばれる、老人ホームの入居権の名義貸しの相談が含まれています。

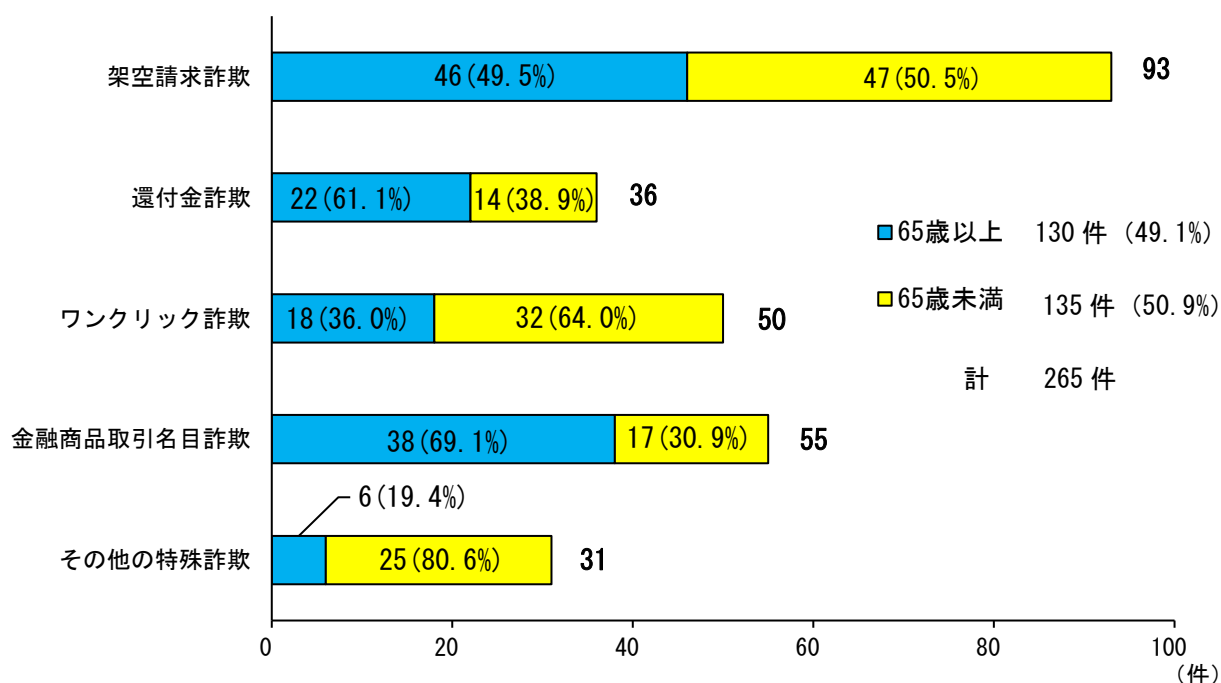
(単位：件)

類 型	年 度		増 減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
	令和4年 4-9月 (a)	令和3年 4-9月 (b)		
振り込め詐欺	68	100	▲32	68.0%
架空請求詐欺	46	29	17	158.6%
還付金詐欺	22	71	▲49	31.0%
融資保証金詐欺	0	0	0	-
オレオレ詐欺	0	0	0	-
金融商品取引名目詐欺	38	4	34	950.0%
ワンクリック詐欺	18	16	2	112.5%
その他の名目詐欺（宝くじ）	4	3	1	133.3%
異性との交際あっせん名目詐欺	2	1	1	200.0%
ギャンブル必勝法情報提供名目詐欺	0	0	0	-
合 計	130	124	6	104.8%

## ② 特殊詐欺類型別に占める高齢者の割合

特殊詐欺類型別に占める高齢者の割合は、金融商品取引名目詐欺が69.1%と最も高く、次いで、還付金詐欺が61.1%となっています。

〔特殊詐欺類型別に占める高齢者とそれ以外の割合〕



## ③ 高齢者の特殊詐欺に係る既払金額

高齢者の特殊詐欺の相談に係る既払金額の状況を見ると、お金を払った人の数、既払金額合計、一人当たりの平均既払金額は増加しましたが、最大既払額は減少しています。

	令和4年 4-9月 (a)	令和3年 4-9月 (b)	増減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
お金を支払った人の数	13人	11人	2人	118.2%
既払金額合計	26,433千円	15,372千円	11,061千円	172.0%
平均既払金額（一人当たり）	2,033千円	1,397千円	636千円	145.5%
最大既払額	8,950千円	12,000千円	▲3,050千円	74.6%

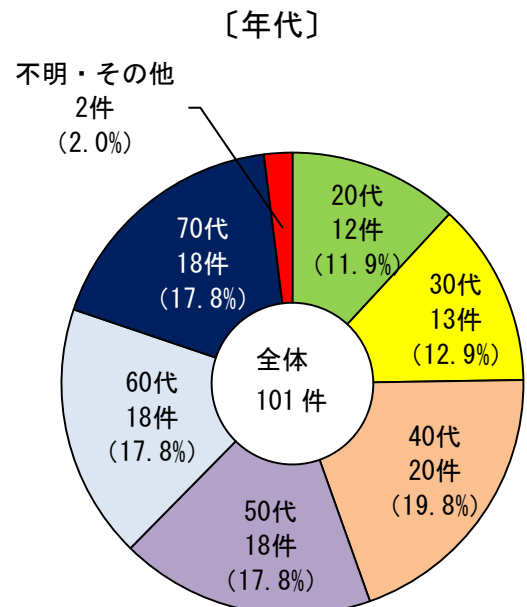
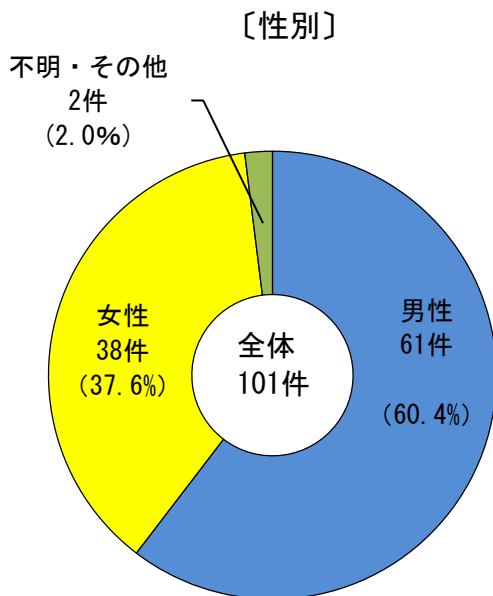
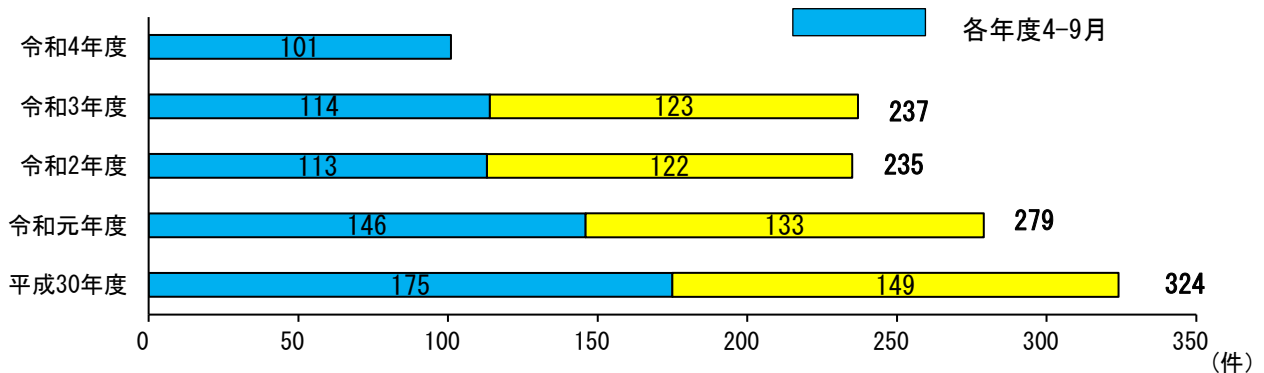
## 5 多重債務に関する相談の状況

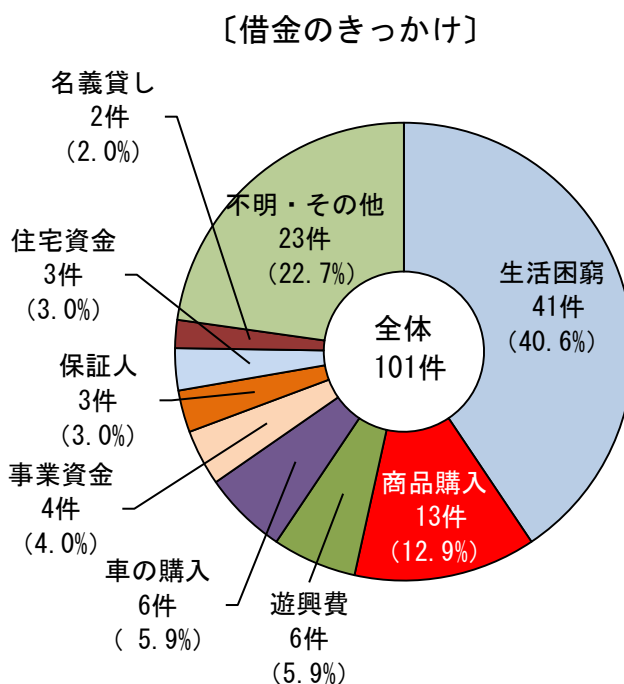
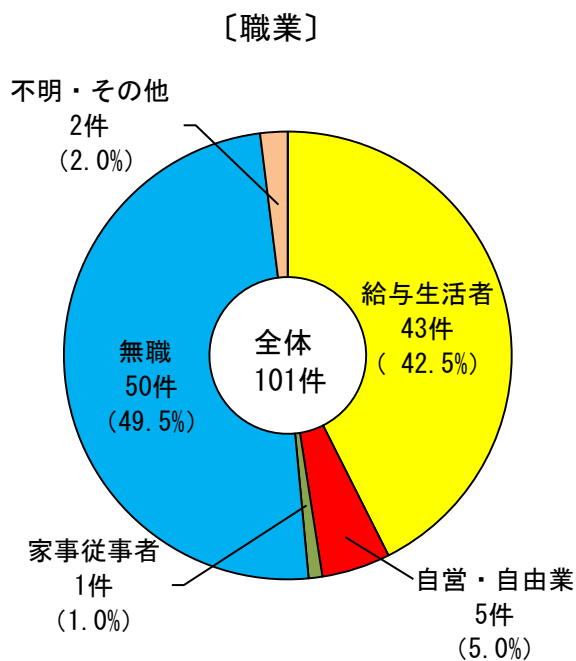
令和4年4-9月における多重債務に関する相談件数は101件で前年度より13件(11.4%)減少しています。(単位：件)

	令和4年 4-9月 (a)	令和3年 4-9月 (b)	増減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
相談件数	101	114	▲13	88.6%

過去5年間の同時期と比較すると、減少傾向で推移していることがわかります。

〔多重債務相談件数の推移〕





## 6 ヤミ金などの相談状況

令和4年4-9月におけるヤミ金などに関する相談件数は5件で、前年同期より1件（16.7%）の減少となりました。

（単位：件）

	令和4年 4-9月 (a)	令和3年 4-9月 (b)	増減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
ヤミ金	5	6	▲1	83.3%
融資保証金詐欺	0	0	0	-
借金整理屋	0	0	0	-
ショッピング枠現金化	0	0	0	-
計	5	6	▲1	83.3%



## 7 商品・役務別相談内訳

		令和4年4-9月		令和3年 4-9月	増減
			構成比 (%)		
商 品	商品一般	462	11.9	412	50
	食料品	284	7.3	291	▲7
	住居品	151	3.9	122	29
	光熱水品	75	1.9	92	▲17
	被服品	200	5.1	145	55
	保健衛生品	340	8.8	261	79
	教養娯楽品	271	7.0	238	33
	車両・乗り物	103	2.6	115	▲12
	土地・建物・設備	66	1.7	75	▲9
	他の商品	8	0.2	4	4
	小計	1,960	50.4	1,755	205
役 務	クリーニング	14	0.4	2	12
	レンタル・リース・貸借	146	3.8	132	14
	工事・建築・加工	93	2.4	78	15
	修理・補修	45	1.1	50	▲5
	管理・保管	4	0.1	1	3
	役務一般	45	1.1	38	7
	金融・保険サービス	349	9.0	323	26
	運輸・通信サービス	264	6.8	298	▲34
	教育サービス	7	0.2	5	2
	教養・娯楽サービス	293	7.5	352	▲59
	保健・福祉サービス	186	4.8	223	▲37
	他の役務	243	6.2	238	5
	内職・副業・相場	30	0.8	42	▲12
他の行政サービス	43	1.1	30	13	
小計	1,762	45.3	1,812	▲50	
他の相談	167	4.3	186	▲19	
合計	3,889	100.0	3,753	136	

主 商 品 相 談 の の	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 商品一般（商品を特定できないもの）</li> <li>② 保健衛生品（化粧品、他の保健衛生品、医薬品）</li> <li>③ 食料品（健康食品、魚介類、菓子類）</li> <li>④ 教養娯楽品（他の教養娯楽品、電話機・電話機用品、音響・映像製品）</li> <li>⑤ 被服品（紳士・婦人洋服、アクセサリ、履物）</li> </ul>
主 役 務 相 談 の の	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 金融・保険サービス（融資サービス、他の金融関連サービス、生命保険）</li> <li>② 教養・娯楽サービス（娯楽等情報配信サービス、他の教養・娯楽）</li> <li>③ 運輸・通信サービス（インターネット通信サービス、移動通信サービス）</li> <li>④ 他の役務（役務その他、冠婚葬祭、外食・食事宅配）</li> <li>⑤ 保健・福祉サービス（他の保健・福祉、老人福祉・サービス、理美容）</li> </ul>